

## 第 4 回文部科学省 I B 教育推進コンソーシアム関係者協議会

## 分科会名「教員養成のための必要な施策について」

メンバー名：田原 誠，ネルソンフミコ，河合知成，ダッタ・シャミ，眞砂 和典，大西 洋

## 1. 課題の把握（既に提示されている問題点も含め、関連した課題の洗い出し）

## 1) IB 導入を行う中等・高等教育校教員に対する研修

- ・IB 教員としての活動には、IB の理念、教育目的、学習内容の理解や教育方法の修得が欠かせない。さらに、IB 教育は、学習者に学ぶ方法を体得させることを目標に、探究、概念理解、地域・グローバル協働などに重点を置いた指導を行う。このような IB 教育の特徴は、日本の従来の学習・指導方法とは異なるため、IB 導入を目指す中等・高等学校では担当教員に対する体系的な研修が欠かせない。
- ・日本語で教科を担当する教員であっても、ディプロマ・コースには英語による授業が 2 科目以上あるので、英語の運用能力は必要であり、その研修は欠かせない。

## 2) 国際バカロレア教員養成コースの拡充

- ・IB 教員の養成は大学などの IB 研究コースでも進められている。このコースは IBO が認定するものであり、教育理念ばかりでなく、総合的な知識・技能を備えた IB 教員の養成が期待される。このような教員養成コースは、H31 年度開始大学・大学院を含め現在 7 大学で設置されているが、1) の教員の研修先としても相応しいので、地域の教育学部を持つ中核的な大学にもその設置を広げるなどの対応が重要である。

## 2. 優先課題の選定（課題の重要度および課題の取り組みやすさなども考慮したうえ優先課題を整理）

## 1) IB ワークショップの定期的な開催と参加促進策（地方都市での開催、参加費補助など）

## 2) 科目横断的に必要な知識・技能などを養う科目のワークショップの IB 導入予定校内での開催

ATL(Approaches to teaching and learning), TOK(Theory of Knowledge)などの日本語による開講

## 3) 国際バカロレア教員養成コースの地方中核大学での設置

## 3. 課題解決のオプションの提示（課題解決のための具体的な方策の提示）

## 1) IB ワークショップの定期的な開催と参加促進策（地方都市での開催、参加費補助など）

- ・IB ワークショップの参加は IB 導入予定校の教員にとって、必須であり、最も取り組みやすいものである。このため、たとえば、地方の中核的な都市の大学などで一定の期間、さまざまなセッションを組み合わせで開催し、地方の学校教員であっても、費用的な負担（参加費、旅費、滞在費など）を抑えて、複数のセッションに参加できるようにする。その際、参加費の公的な補助を期待する。

## 2) 科目横断的に必要な知識・技能などを養う科目についてのワークショップの IB 導入予定校内での開催

- ・ATL や TOK など科目横断的に必要な教育方法や科目について、IB 導入予定校内の関係教員全員を対象に体系的に実施する。

## 3) 国際バカロレア教員養成コースの地方中核大学での設置要請

- ・地域の教育学部を持つ中核的な大学に国際バカロレア教員養成コースの設立を求める。コースは IB 教員の養成に貢献するばかりでなく、附属学校において PYP, MYP, DP に関連した教育が導入される。地域の教育系の大学の取り組みは、IB 教育の草の根的な普及を促すものであり、実行計画をコンソーシアムで立案し、文部科学省には政策的な対応を依頼する。

## &lt; I B に普及促進に関する諸課題について &gt;

## ・学習指導要領と IB ガイドとの整合性の理解（大西洋先生提案の要約）

IB 教育の根幹に関わる重要な概念やルールについては、母語できちんと理解していく必要があり、IB の改定に合わせて IB のガイドの翻訳を希望する。さらに、新学習指導要領の改訂によって、資質・能力や主体的・対話的で深い学び等の IB と親和性の高い内容が導入される。それぞれの目的・内容を正確に把握し、融合を図っていくことも日本の IB 教員に課された使命であると捉えている。